

福岡大学病院

FUKUOKA UNIVERSITY HOSPITAL

あたたかい医療



福岡大学病院の理念

あたたかい医療

社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

高度先進医療の指導的病院

地域に開かれた中核的医療センター

社会に必要とされる優れた医療人の育成

健康のための情報発信基地

福岡大学病院綱領

1. 患者の権利と尊厳を尊重し、高い倫理観、使命感を備え
優しい心を持った医療人による誠実で責任ある医療を提供します。
2. 高度先進医療を提供する大学病院として最新の医療技術を導入し、
個々の患者に応じた最善の医療を提供します。
3. 全人的医療を目指して全職種が協働し、
患者を中心とした満足度の高い診療に取り組みます。
4. 地域住民との絆、地域医療機関との連携を大切にし、
医療・健康に関する情報の発信を通して医療水準の向上に努めます。
5. 臨床研究・高度技術の開発など、大学病院として先端的研究に取り組み、
世界の医療や医学の発展に貢献する人材の育成を図ります。



ご案内
Information

病院長あいさつ

福岡大学病院は1973年に開設され2023年に50周年を迎えました。その後、歴史を重ねた旧本館は老朽化により、2021年から建て替えを行い、2024年5月に新本館が開院しました。利便性と高度な機能を備えた環境が整い、さらに地域医療に貢献してまいります。福岡市地下鉄福大前駅から直結した中央棟を抜けると本館へとつながっています。1階中央には来院された患者さんやそのご家族が心地よい時間を過ごせるよう、ツリーをイメージした広いロビーを設けました。

総病床数は771床を有し、幅広い医療に対応できるよう、救命救急センターをはじめ、ハートセンター、脳神経センター、総合周産期母子医療センター、小児医療センター、消化器センター、女性診療センター、腎・泌尿器・膠原病センター、整形外科・運動器・脊椎・脊髄センターなどの臓器別にセンター化しており、専門性を高めています。

特定機能病院として高度な医療技術を用いた急性期医療をはじめ二次・三次救急も担い、福岡・糸島医療圏の医療を支えています。大学病院として多岐にわたる診療科が対応し、さまざまな専門性を持つ医師が患者さんをしっかりと治療することで地域の中核的な病院としての役割を果たしています。2024年4月に救急治療センターを開設し、救命救急センターや各診療科と連携し、近隣医療機関や救急隊からの要請に対応できるよう取り組んでいます。

また、がんをはじめさまざまな疾患の低侵襲手術が求められており、手術支援ロボットを3台に増設し強化するほか、ハイブリッド手術室を充実させ、脳・心血管系疾患に対するカテーテル治療についても注力しています。また、総合周産期母子医療センターを拡充し、低体重や合併症が見られる新生児への医療、難しい出産などにも積極的に取り組んでいます。

さらに、約1,900人の職員が日々協力し合い、縦のつながりだけでなく横のつながりも大切にしています。人と人の連携が網目上に広がることで強固になり、医師、看護師、理学療法士、栄養士などの多職種によるチーム医療を実践し、患者さんとの信頼関係を築くことでより良い医療が届けられると考えます。

今後も高度な質の高い安心安全な医療を提供するとともに、地域医療に貢献できるよう邁進してまいりますので、ご支援をよろしく願いいたします。

福岡大学病院 病院長
三浦 伸一郎



外来



患者さんひとりひとりを大切に
「あたたかい医療」を提供してまいります。

診療受付時間

平日

初診	8時30分～12時00分
再診	8時30分～15時00分

休診日：土曜日・日曜日・祝日・振替休日
8月15日・12月29日～1月3日

PICKUP

案内・受診相談

中央棟1階初再診受付横に、案内・受診相談窓口を設けています。

院内の施設や場所等の説明は、専従の案内コンシェルジュがご対応をいたします。また、来院された患者さんで、受診診療科を悩まれた際は、看護師を中心に受診相談も行っておりますので、ご相談ください。



診療科・センター 一覧

- 福岡大学がんセンター(腫瘍・血液・感染症内科)
- 内分泌・糖尿病センター(内分泌・糖尿病内科)
- ハートセンター(循環器内科、心臓血管外科)
- 消化器センター(消化器内科、消化器外科)
- 腎・泌尿器・膠原病センター(腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科)
- 呼吸器センター(呼吸器内科、呼吸器・乳腺・小児外科)
- 脳神経センター(脳神経内科、脳神経外科)
- 精神神経科
- 小児医療センター(小児科、小児外科)
- 整形外科・運動器・脊椎・脊髄センター
- 皮膚科・形成外科・美容医療センター
(形成外科・美容外科、皮膚科・美容皮膚科)
- 女性診療センター(産婦人科、呼吸器・乳腺・小児外科、形成外科)
- アイセンター(眼科)
- もの忘れ外来専門センター(脳神経内科、精神神経科)
- 耳鼻咽喉・頭頸部外科
- 放射線科
- 麻酔科
- 歯科口腔外科
- リハビリテーション部
- 総合診療科
- 再生医療センター
- 心臓リハビリテーションセンター(循環器内科、心臓血管外科)
- 摂食嚥下センター(歯科口腔外科、耳鼻咽喉・頭頸部外科)
- 最先端ロボット手術センター
(呼吸器・乳腺・小児外科、消化器外科、腎泌尿器外科、産婦人科)
- 炎症性腸疾患先進治療センター(消化器内科)
- 遺伝医療室
- 臓器移植医療センター
(呼吸器・乳腺・小児外科、腎泌尿器外科、腎臓・膠原病内科、眼科)
- 睡眠センター
- 子どものこころ診療センター
- 救急治療センター
- 脳卒中センター(脳神経内科、脳神経外科)
- 不整脈センター(循環器内科)
- 脊椎・脊髄センター

病棟



患者さん中心の医療が提供できる
安心・安全な療養環境づくりを目指します。

病室

2024年5月に開院した本館は、集中治療部門を集約し、病状や治療に合わせ、専門性の高い医療が提供できる療養環境を整えています。患者さんにとっては、病棟が生活の場となりますので、早期回復に向け、患者さん個々に応じた療養環境を提供いたします。

[一般室]



[個室]



PICKUP

てぶらで入院セット 有料

入院の際、身の回りのものをまとめて提供する「てぶらで入院セット(有料)」をご用意しています。衣類や消耗品の準備、タオルの洗濯等が不要になりますので是非ご利用ください。

- ・病衣
- ・バスタオル
- ・フェイスタオル
- ・お食事セット
(箸・スプーン・フォーク)
- ・ストロー
- ・ストローコップ
- ・歯磨きセット
- ・ティッシュ
- ・イヤホン など

PICKUP

床頭台利用の無償化

少しでも快適な療養環境になるよう床頭台は、収納棚付きで、テレビ及び冷蔵庫は無償で利用できます。



高度医療機器



最新型のロボット支援システム「ダビンチXi」などの最新医療機器を備えています。

放射線治療装置 TrueBeam

2024年9月、Varian社製放射線治療装置TrueBeamが導入されました。この装置は高精度放射線治療であり、強度変調放射線治療(腫瘍の形に合わせて放射線を集中し、周囲の正常組織への照射線量を低減する照射法:IMRT)や定位放射線治療(根治を目的として1回に大線量を限局した部位に照射する照射法)が可能です。また患者さんの治療体位の位置合わせの利便性も向上しており治療室への入室から退室までの時間を短縮できます。福岡大学病院に導入されたTrueBeamのVersionは2023年9月にリリースされた最新式で、治療計画から照射までが効率的にシステム化されています。また画像誘導放射線治療(IGRT)を行うことにより、再現性の高い正確な放射線治療を提供することができます。この最新放射線治療装置の導入により、今まで以上に安全で安心できる高品質な放射線治療を提供してまいります。



Varian社製放射線治療装置「TrueBeam」

九州最多の手術用ロボットを備えた病院

かの有名な芸術家の名を冠したダビンチXiは最新式の手術支援ロボット機器です。da Vinci Surgical System (Standard)が1999年に完成して以来、各国に広まったロボット支援機器。日本では2012年に前立腺がんに対する保険適用となったのをきっかけに多くの施設に導入されました。

ロボット手術はこれまで行われてきた腹腔鏡手術の低侵襲性(身体への負担が少ない)に加え、正確で微細な手術が可能となったことに大きな利点があります。福岡大学病院は2015年からロボット手術を開始しています。手術件数の増加に伴い、2024年にはダビンチを追加で1台(計3台)、国産のSaroa(サロア)1台、hinotori™(ヒノトリ)1台を導入し、九州で最も多くのロボット手術を行っています。

現在、当院では消化器、呼吸器、泌尿器、婦人科の多くの手術をロボットを用いて行っております。患者さんの様々なご要望にお応えできると思いますので、治療でお悩みの際は、各疾患の外来窓口までお気軽にご相談ください。



ダビンチ Xi



国産ロボット Saroa



国産ロボット hinotori™

医学・薬学教育



医のプロフェッショナルを目指します。

臨床研修プログラムの特色

本院の研修プログラムは、福岡大学病院と福岡大学筑紫病院を主体に、地域の研修協力病院と病院群を構成し、効率的な研修を目標にしています。1年次に必修科目(内科、外科、麻酔科を含めた救急部門、精神科、小児科、産婦人科)をひと通り経験し、プライマリケアを修得した上で、研修医の経験症例や多様なニーズに応じて2年次は自由に研修科や研修期間を選択できるよう選択科目の期間を長く(36週間＝9カ月)設けています。また、1年次では筑紫病院で研修できるコースも選択することができます。このほか、小児科、産婦人科に特化した研修プログラムも設置しています。

臨床研修医の教育

本院は地域の基幹病院であり、コモンディーズ(高頻度にみられる疾患)から珍しい疾患まで様々な症例を経験できます。患者さんのファースト・タッチは研修医が行い、上級医と共に診療にあたる「屋根瓦方式」を採っており、実践的なプライマリ・ケアの修得ができます。また、三次救急のほか二次救急として新たに「救急治療センター(ERセンター)」を設置し対応しています。多くの診療科、専門医を有し、関連する診療科がセンターを形成しており連携もスムーズで、症例を総合的に診療することができます。研修医は様々な選択肢から進路を考えることができます。

医学部医学科

臨床実習生として認定された医学生が、患者さんの診療チームの一員として大学病院内で臨床実習を行っています。指導医のもとで患者さんの病歴聴取、身体診察、検査や治療・手術などを実際に経験し、患者さんから学ぶクリニカルクラークシップは医師になるための必須のプログラムです。

医学部看護学科

生命の尊厳に基づいた、心豊かで総合的な人間教育を基盤として、論理的・倫理的な看護実践能力を育成し、看護学の発展並びに地域・国際社会に貢献できる看護師を育成しております。そのため看護の専門性確立を目指した実践・教育・研究の基礎を身につけ、他領域の人々と連携できる学際的看護学の調整能力を養うため、4年間で多くの臨地実習を実施しています。

薬学部薬学科

薬学生が、病院内におけるチーム医療の実践や病棟薬剤業務の参加型実習を通じて、薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を学びます。



クリニカルクラークシップ

医学部・薬学部の学生には、診療参加型臨床実習(クリニカルクラークシップ)、つまり、医学部・薬学部と病院を一体化した連続性のある教育が求められています。一人での知識や勉強では得られない、サイエンスに支えられたアートの世界が医学教育には必要です。命の大切さを学ぶ精神を基軸に、医療安全・患者満足度の視点等、医学教育の改革は世界的潮流です。医療を志す学生が基本的臨床能力を習得するための必須プログラムです。



臨床実習生

臨床実習前共用試験に合格した学生は臨床実習生認定証(名札)を着用して、患者さんの診療に参加することが認められます。



1 救命救急センター

24時間365日私たちは、救急患者さんの治療に全力を尽くします。



初期診療室での診療の様子

PICKUP

救命救急センター／ECMOセンター

当院の救命救急センターは、人口250万人を抱える福岡都市圏のうち、福岡市西南部と糸島市を中心に、「三次救急」医療を担っています。重症患者を同時に3名収容可能な初期診療室があり、うち1室は部屋を陰圧化することで感染症患者の対応も可能です。また、集中治療室(20床)と一般病棟に5床の専用病床を有しています。年間600-700例の最重症患者を受け入れ、救急医療の最後の砦としての役割を果たしています。さらに、2020年7月には重症呼吸不全の治療に特化したECMOセンターを併設しました。加えて、屋上ヘリポートを有し、近隣以外の医療圏からヘリ搬送患者にも対応します。スタッフ一丸となってチーム医療を実践し、一人でも多くの患者の救命を目指します。

PICKUP

ドクターカー(ECMOカーとFMRC)

現在、福岡大学病院はECMOカーとFMRC(Fast Medical Response Car)の2台の異なるタイプのドクターカーを運用しています。

- **ECMO(エクモ)カー**：通常の救急車では対応が困難な人工呼吸器やECMO等を装着している重症患者を搬送する際に使用します。車両内のスペースは広く、集中治療室並の装備を配置し、「動く集中治療室」と呼ばれています。
- **FMRC(Fast Medical Response Car, 通称:エフマーク)**：消防司令センターからの要請で救急現場にいち早く医師や看護師を向かわせ、事故急病患者に対して早期治療を開始し、病状を安定させるための緊急自動車です。

救命救急センターは2台のドクターカーを駆使し、病院内のみならず、院外から救急医療を提供します。



ECMOカー



FMRC

「一次救急」は
入院する必要のない軽症の急病患者、

「二次救急」は
入院や手術を必要とする患者、

「三次救急」は
生命に危険が及ぶような緊急性の高い
重症患者に対応するものです。

当院では、
二次救急を救急治療センター(ERセンター)が、
三次救急を救命救急センターが
担っています。

PICKUP

災害医療(DMAT)

Disaster Medical Assistance Team

DMATとは「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」で、医師、看護師、業務調整員で構成される災害医療のスペシャリストです。当院のDMATは東日本大震災をはじめ、2016年の熊本地震、2017年の九州北部豪雨、2020年の人吉での豪雨災害、2023年の九州北部豪雨(久留米市田主丸町)、2024年の能登半島地震に出動し、医療活動等を行いました。



能登半島地震の医療支援に向かうDMAT

2 救急治療センター

地域の安全・安心と健康を支える拠点



当院は24時間体制で急病や外傷などの救急患者を受け入れており、年間約3,000台の救急搬送に対応しています。軽症から中等症の患者は救急治療センターが担当し、大学病院の強みを活かして各専門診療科と密に連携しながら、幅広い疾患・外傷に対応しています。迅速かつ適切な初期診療を行い、患者さんの救命と早期社会復帰を目指しています。近年、福岡市内でも救急出動件数は増加の一途をたどり、搬送先が決まらず救急車が長時間現場にとどまる「搬送困難事案」が深刻化しています。当院ではそのような事態に対応するため、救急車の積極的な受け入れを行い、地域の救急医療体制を支えています。さらに、救急治療センターは医学生や初期研修医、看護学生、救急救命士などの実習・教育の場としても重要な役割を担っており、日々の診療を通じて実践的な臨床能力の育成に力を入れています。今後も地域の皆様の安心と健康を守るため、努力を続けてまいります。

3 脳卒中センター

脳卒中の治療はチームで支えます。
— 救急からリハビリまで一緒に取り組みます。

脳卒中(脳血管障害)は脳の血管が破れたり、詰まったりしておこる病気の総称で、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血があります。脳卒中は非常に多くの方が罹患する疾患であり、4人に1人は生涯に1度脳卒中を発症します。そして、いったん脳卒中を発症すると、80%の方には何らかの後遺症が残ると言われています。2018年に脳卒中・循環器病対策基本法が制定され、脳卒中診療を行う病院の診療体制に対する法整備が進んでいます。

脳卒中に対する治療は現在めざましい進歩を遂げています。脳梗塞ならば原因となっている血栓を取り除くための血栓溶解療法やカテーテルによる血栓除去療法を行います。脳出血ならば血腫除去術、くも膜下出血ならばコイル塞栓術などを行います。その他の薬物療法などを合併症なく適切に行っていくために、当院では脳卒中専門の病棟であるSCUを有しております。われわれは脳卒中の患者さんに対して脳神経内科、脳神経外科、救命救急センターの3科で連携して診療を行い、看護部、栄養部、薬剤部、リハビリテーション部門とも協力して診療を行っています。患者さんや家族の医療、介護に関する情報を提供する脳卒中相談窓口を設置しており、患者さん、ご家族からの脳卒中に関する相談にもお答えしております。



4 不整脈センター

様々な不整脈疾患に対して、先進テクノロジーを駆使し診療します。

不整脈は日常診療でしばしば遭遇されます。その自覚症状は動悸、脈の結滞、胸痛、めまい・ふらつき、失神や突然死を引き起こすなど様々である一方、無症候で経過し健診などで初めて指摘されることがあります。不整脈疾患は頻脈性不整脈(心房細動、心房・心室期外収縮、心室頻拍や心室細動など)と徐脈性不整脈(洞不全症候群や房室ブロックなど)に大別できますが、これらは的確に評価診断され、適切な治療を施される必要があります。治療方法として、カテーテルアブレーションや植込み型心臓電気デバイス



などを用いた非薬物的療法、抗不整脈薬、抗凝固薬や抗心不全薬などを用いた薬物療法があり、様々な治療の選択や組み合わせから最適な医療を提供します。それらの治療法の多くは、自覚症状の改善のみならず、脳梗塞の予防、心不全の予防と改善や生命予後の改善をもたらすなどの高いエビデンスを有しており、皆様にとってより良い診療を施します。

5 脊椎・脊髄センター

脊椎変性疾患のみでなく、骨粗鬆症性椎体骨折、脊椎脊髄腫瘍、転移性脊椎腫瘍、脊椎脊髄外傷など、幅広い慢性期および急性期の脊椎・脊髄疾患に対応しています。

PICKUP

脊椎脊髄カンファレンス

毎週、脊椎脊髄グループカンファレンスを実施しており、入院・手術症例だけでなく外来で診断や治療に難渋した症例も、神経学的所見と画像診断所見(XP/MRI/CT-myelo)を基に総合的に病態を診断し、病態に応じた内服加療やブロック療法、手術療法について議論しています。



PICKUP

透視下検査・治療

外来にて神経根ブロックや椎間関節ブロック、一泊二日入院にて脊髄腔造影や椎間板造影を診断目的だけでなく、治療の一環として施行しています。



PICKUP

MIS

(minimum invasive surgery)

適応に合わせ、低侵襲手術(MEDやFESS)も積極的に行っています。



病態の診断・治療選択適応を十分に吟味し、患者さんの社会的背景にあった治療法を選択します。

6 子どものこころ診療センター

福岡大学病院が支える成育医療の新たな展開

教育・福祉・行政・プライマリケア医療等、さまざまな分野から、「子どものこころの問題」に対する診療体制の構築が求められています。こうした背景のもと、福岡大学病院では2023年4月から「子どものこころ診療センター」を設立し、地域社会との連携を強化しながら、子どものこころの診療体制を整えています。子どものこころの問題は、抑うつや、不安といった典型的な精神症状として表れるのではなく、言語発達の未成熟により、慢性頭痛・慢性腹痛・めまい・朝起きられない・体がきついなどの身体症状として現れることが一般的です。人口160万人を超える福岡市においても、「子どものこころの問題」に対応できる小児科入院病棟施設は限られています。そのような状況の中、福岡大学病院は、子どものこころ専門医研修施設として認定を受けており、専門的な診療と支援を提供しています。



7 睡眠センター

眠りの専門家が、あなたの健康を支えます。



福岡大学病院 睡眠センターは、2022年8月に診療支援組織としてスタートし、2024年4月から正式の診療支援部門のひとつとなりました。そして2023年7月には、日本睡眠学会より「専門医療機関A」に認定され、大学病院として九州で3番目、西日本で9番目の認定という高い評価を受けています。

当センターでは、医学的根拠に基づいた診断と治療を行い、睡眠時無呼吸症候群をはじめ、むずむず脚症候群、周期性四肢運動障害、過眠症（ナルコレプシー・特異性過眠症など）、概日リズム睡眠覚醒障害、レム睡眠行動障害、不眠症など、多岐にわたる睡眠障害に対応しています。また複数の専門診療科と連携し、各疾患に最適な医療を提供いたします。学会認定の専門知識と臨床経験を活かし、あなたの「質の高い眠り」を取り戻すサポートを行っています。

医学的にも、気持ちの面でも「Thank you! (サンキュウ)」とさせていただけるような専門施設を目指しています。安心してご相談ください。

8 地域医療連携センター

患者さんがより適切な医療を受けられる体制を整備することを第一に、地域やその他の医療機関との医療連携の円滑化を目指します。

●「かかりつけ医制度」を推進しています

当院は、高度で専門的な医療を担う特定機能病院として、他の医療機関からご紹介いただいた患者さんを中心に診療を行っています。地域の「かかりつけ医」と連携を取り、患者さんの症状に応じた適切な医療を提供いたします。

●症状が安定すると、他の病院・医院をご紹介します

症状が安定した患者さんやお薬のみで通院されている患者さんについては、「かかりつけ医」またはお近くの医療機関へ転院し、治療を継続していただくことになっています。病院の機能分担に、ご理解とご協力をお願いいたします。



PICKUP

外来事前診療予約

外来担当医、特に専門医による診療は毎日ではありません。予約なしでご来院いただくと、診療までに長い時間お待ちいただいたり、担当医が不在の場合は、患者さんのご希望に添えず受診できない場合があります。当院での受診をご希望の場合は、「かかりつけ医」等にご相談いただき、医療機関から事前に診療のご予約をしていただくことをお勧めしています。

PICKUP

退院支援

当院を退院・転院される患者さんが、地域の医療施設や自宅等で安心して暮らしていけるよう、看護師やソーシャルワーカーが専門的立場からサポートいたします。また、在宅療養を希望される方には、ご希望をお聞きしながら在宅医、介護支援専門員(ケアマネージャー)等と連携し、在宅医療、訪問看護・介護のサービス導入の調整を行います。

PICKUP

医療相談窓口

病気や療養に伴って生じる経済的な問題や、仕事や療養生活についての問題など、様々な気がかりや不安に対して、看護師・医療ソーシャルワーカーがご相談に応じ、問題解決できるよう一緒に考えサポートいたします。患者さんご本人はもとより、ご家族からの相談もお受けしますので、どうぞご相談ください。

PICKUP

治療と仕事の両立支援相談窓口

病気を抱えた患者さんが適切な治療を受けながら働き続けることをサポートする相談窓口です。月に3回、福岡産業保健総合支援センターから派遣された、両立支援促進員(社会保険労務士など)による出張相談窓口も設けています。

PICKUP

「かかりつけ医」紹介コーナー

普段の通院治療、当院での治療後の経過確認、急な身体の変調時の初期治療に対応していただける地域の「かかりつけ医」をご紹介します。「かかりつけ医」をお探しの方は中央棟1階の【紹介コーナー】をご利用ください。

PICKUP

医療セミナー 対象者:医療関係者

- 福岡大学病院メディカルセミナー
 - 糸島医師会・福大病院地域連携学術講演会
- 医療連携の取り組みの一つとして、各診療科の特色や教育・研究活動の紹介を通じて、地域の医療関係者との協力関係の充実を図っていくことを目的に医療セミナーを開催しています。

9 入退院支援センター

入院予定時より周術期管理を含め、
入院・退院に関する適切な支援を行います。

当センターは、入院予定の方を対象に、入院中および退院後に安心して療養生活を送ることができるよう多職種で支援をする部門です。外来から入院、退院後までを見据え、入院生活や退院後の療養などにおける不安や気がかりを入院前から共有させていただき、院内だけではなく、地域の行政や社会福祉機関とも連携をとり、病気に向き合う患者さん、ご家族を支援しています。

● 麻酔科医師

患者さんが麻酔の安全性、必要性、危険性などについてしっかりと理解した上で安心して手術、麻酔に臨んでいただけるように、麻酔の説明をします。

● 歯科医師

歯科医師は手術日を含めた手術前後の口腔ケアを中心とした周術期口腔機能管理を行っています。

● 看護師

入院に必要な情報の聴取、入院に対する思いや気がかりの確認、入院生活や治療過程の概要等の説明を行います。

● 管理栄養士

栄養状態の評価、食物アレルギーや適性食種の確認を行います。

● 薬剤師

お薬手帳を確認し、治療や検査に影響のある薬等(休薬推奨薬)はないか、地域の薬局とも連携し、薬剤管理を行います。

● 歯科衛生士

歯科衛生士は、入院手術を予定された患者さんの口腔内観察を行い、口腔衛生状態や全身麻酔時の保護が必要な動揺歯等のチェックを行います。

● メディカルソーシャルワーカー

仕事と病気の両立に関することや経済的なこと、退院後の社会福祉制度利用や自宅療養に関する相談等をお受けしています。円滑な療養生活支援のために、入院前から保健福祉機関とも連携を行います。

10 摂食^{えんげ}嚥下センター

食べて飲み込む機能の評価や維持、飲食物が気管に入ってしまうことによる肺炎や窒息の予防などに対してチーム医療を提供します。

超高齢化社会になり、入院患者さんが高齢化したこともあり、食べて飲み込む(摂食嚥下)障害に対する診療の重要性が増しています。摂食嚥下センターでは、医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士などの多職種で構成されるチームが、検査、治療、リハビリテーションにあたっています。入院患者さんの摂食嚥下障害に関する情報を集め、X線透視や内視鏡を用いた嚥下機能検査を行い、食事の形態や水分へのとろみの程度を適正に調整しています。また、必要に応じてリハビリテーション(嚥下訓練)を行い、転院や退院の際に提携先の病院やクリニック、施設に摂食嚥下に関する患者さんの情報を提供しています。さらに、摂食嚥下障害に携わる院内のスタッフを教育、養成する役割も担っています。



11 がんセンター



福岡大学病院は、がん診療連携拠点病院として専門的ながん医療を提供するとともに、地域の医療機関と連携して患者さんの治療や生活のサポートを包括的・継続的に行っています。がんセンターは診療科や職種の枠を超えて構成され、福岡大学病院でがん治療を円滑かつ効率的に行うことを目的に活動しています。

PICKUP

外来化学療法センター

抗がん薬に加えて、がん細胞がもつ特徴を選択的に攻撃する分子標的薬、自分の免疫力でがんを攻撃する免疫チェックポイント阻害薬など新規の治療薬が開発され、がんに対する薬物療法は進歩しています。治療には必ず副作用がありますが、いつ頃どのような副作用が起こるかを予測して予防もしくは早期発見・早期治療に努めることで、安全に有効な治療を実施できるよう専門の医師、看護師、薬剤師が協力して治療に臨んでいます。



PICKUP

放射線治療

外照射機器はリニアック2台を備え、年間治療患者数は約500例です。2021年に強度変調回転放射線治療 (VMAT) をメインとする治療装置ハルシオン、2024年9月には通常放射線治療から高精度な強度変調放射線治療や定位放射線治療まで幅広く対応可能な最新型の治療装置 TrueBeam を導入し、より高品質な治療を提供できるようになっています。セカンドオピニオン目的の放射線治療相談外来を併設し粒子線治療の適応についても相談を受けています。



操作室



治療室

PICKUP

がん相談・支援



がん患者さんやご家族の気がかりを少しでも解決できるよう、がん専門相談員がご相談をお受けしています。相談内容は、「告知や副作用」「副作用と普段の生活との両立や工夫」「退院後の療養場所」など多岐に渡りますが、診断前でも、治療が始まってからでも時期を問わず、対応しています。当院にかかりつけでない患者さんや一般の方への対応も行っています。利用時間は9:00~16:30となっております。

PICKUP

がんリハビリテーション

がんセンターにがんリハビリテーション部門が新たに創設されました。がん治療において、体力の低下は日常生活動作 (ADL) へ影響するだけでなく、治療の選択肢を狭め、治療成績に影響を及ぼします。当部門では体力低下予防の訓練だけでなく、体力やADLの評価を行い、治療や地域連携に役立つように活動しています。

PICKUP

がん手術支援部門

がん治療において手術治療は大きな役割を担っています。2021年1月、福岡大学がんセンターの設立に伴い「がん手術支援部門」が設けられました。福大病院では通常のがん手術のみならず、ロボット支援手術・ハイブリッド手術・ナビゲーション手術などの高度ながん手術を行っています。本部門では、このような手術治療の情報共有や患者さんへのがん手術の啓蒙活動などを行っています。福大病院では多くの患者さんに安心して最善のがんの手術を受けて頂くために、日々努力して参ります。

PICKUP

がん地域医療支援

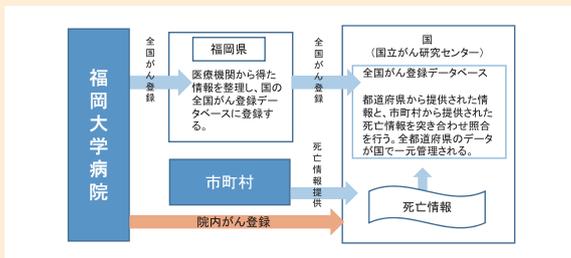
当部門では『大切にしたい、いつもの生活』をスローガンに、当院でがん治療を受ける患者さんが住み慣れた地域で質の高い医療を受け、今までと可能な限り変わらない生活ができ、心身共に安心して療育できるように、紹介医の先生方や地域の医療機関、福祉、介護施設と密な連絡を取り合いながら全力でサポートしていきます。



PICKUP

院内がん登録

院内がん登録とは、「がん」の診断・治療を受けたすべての患者さんについて、がん情報・治療情報・予後情報を収集し登録する仕組みです。これらの情報は、当院におけるがん診療の実態把握や質の向上、がん患者さんへの適切な医療の提供に役立てています。また、国に情報提供することにより、国のがん対策等にも広く利用されています。



PICKUP

緩和ケア

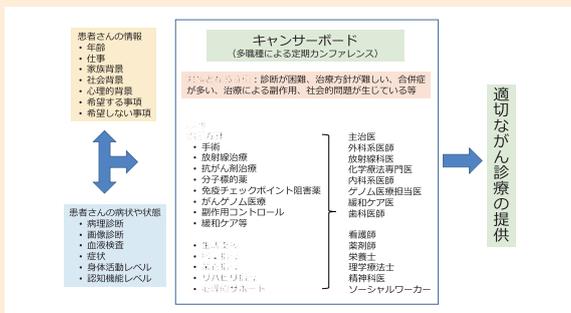


緩和ケアとは、病気の進み具合とは関係なく、からだや心のつらい症状を和らげ、患者さんご家族がより豊かな時間を過ごせるようにするための医療です。症状緩和チームでは、様々な専門分野のスタッフ(医師、看護師、薬剤師、栄養士など)が集まり、主治医と一緒にご自身らしく生きるためのお手伝いをしています。

PICKUP

がんセンターボード運営部門

がん患者さんの中には病状が複雑で、一つの診療科では解決できないことがあります。また、病気だけでなく、家庭の事情や経済的なことなど社会的問題もあります。がん診療では、さまざまな医療専門職の人が、診断から治療、療養生活、緩和ケアに至るまで、チームで支援していくことが重要です。福岡大学病院のがんセンターボードでは、多職種によるスタッフ間で情報の共有を行うことで、多くの視点から患者さんの問題をトータルで検討することで、安心して治療に臨めるようサポートしています。



PICKUP

AYA世代支援部門の紹介

AYAとは、15～39歳の(Adolescent and Young Adult)思春期・若年成人のことをさします。2022年度から、複数の診療科及び専門家と連携をとるためにAYA世代支援部門を設置し、その実働部隊として「AYAサポートチーム」を発足しました。主な取り組みとしては、AYA世代がん患者さんの不安や困っていることをできるだけ早く把握し、それぞれの問題への対応を一緒に考えています。AYAサポートチームは、定期的にミーティングや病院内ラウンドを行い、AYA世代がん患者さんが治療に安心して専念できる環境を提供するために日々取り組んでいます。



PICKUP

がんゲノム

当院は、2019年より「がんゲノム医療連携病院」として「がんゲノム医療中核拠点病院」と連携し、がんゲノム医療を提供しています。がんゲノム医療とは、多数の遺伝子を同時に調べることで(遺伝子パネル検査)、がんに関連した遺伝子変異を明らかにし、個々のがんの特徴に応じた治療を行う医療です。現状、新たな薬剤治療に結びつく症例数は多くはなく、保険診療上の基準もごさいますが、「がんゲノム外来」にて情報提供し、院内院外問わず検査を希望される患者さんが、検査を受けることのできる体制を整備しております。

12 臓器移植医療センター

命のリレー；臓器・組織移植により、患者さんの命をつなぎます。



脳死肺移植実施時の手術室

臓器移植とは、重い病気で特定の臓器の機能が低下し、生命の危機に陥った患者さんに行われる治療です。病気になった臓器を交換することによって病気を治し、命を救う治療ですが、移植用の臓器があつて初めて可能な治療です。移植用臓器は、不幸にして脳死になられた篤志の方(脳死ドナー)や愛情に基づいて臓器提供を望まれる身内の方(生体ドナー)から提供されます。「別の誰かに命をつなぐ」という意味で、「命のリレー」と呼ばれています。現在の日本では心臓・肺・肝臓・腎臓などの移植が可能です。福岡大学病院では「脳死・生体肺移植」と「献腎・生体腎移植」が行われています。また移植医療の中には角膜移植のような「組織移植」という形の移植もあります。角膜移植は、患者さんの視力を回復することで生活の質(QOL)向上に役立てられます。福岡大学病院では、組織移植として「角膜移植」、「臍島移植(再生医療センター)」が行われています。

PICKUP

脳死・生体肺移植

肺移植は、肺線維症や肺気腫などの重い肺の病気で重症の呼吸不全になられた患者さんに実施されます。移植がうまくいくと患者さんは命を救われるだけでなく、肺機能を飛躍的に高めることができます。患者さんは大変元気になり、一度はあきらめた学校や職場への復帰が可能になることもあります。日本国内には現在11か所の肺移植施設があり、福岡大学病院はその一つとして九州全域の脳死・生体肺移植を担っています。九州一円の30-40名の肺移植待機患者さんが、肺移植のその日をそれぞれの居住地でお待ちになっています。肺移植チームの医師は、肺を提供くださる脳死ドナーが現れたら日本中どこへでも直ちに外向いてドナー肺を福岡へ持ち帰り、移植手術を実施します。緊急を要する仕事ですので、移植肺の運搬にはチャーター機が使用されることもあります。

PICKUP

献腎・生体腎移植

進行性の慢性腎臓病のため腎機能を失ってしまった患者さんは血液透析、腹膜透析、腎移植のいずれかの腎代替療法を受けなくてはなりません。3つの治療法のうち最も通常に近い生活を送ることができるのが腎移植です。腎移植には脳死あるいは心停止ドナーから腎臓の提供を受ける献腎移植と、親族から提供を受ける生体腎移植があります。慢性透析患者さんが全国に約34万人、献腎移植希望登録者が約1万4千人いるのに対し、献腎提供は年間200腎程度に留まるため、わが国の腎移植の大半は生体腎移植として行われています。福岡大学病院では腎移植希望者の術前検査、手術直後、および中長期の管理において、腎泌尿器外科と腎臓・膠原病内科が緊密に連携し、安全・確実な移植の実施を心掛けています。

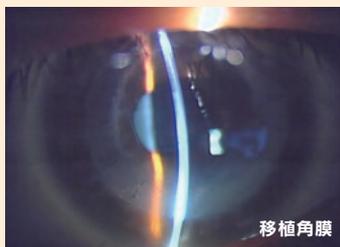


腎移植チーム

PICKUP

角膜移植

いろいろな病気により角膜に混濁などが生じると光を眼の中に通すことができなくなってしまい、視力の低下につながります。角膜移植は障害を受けてしまった角膜を



移植角膜

透明な角膜に取り換えることにより視力の改善を目指す手術になります。当院における角膜移植は多数の症例で輸入角膜を使用しています。そのため、角膜移植を予定手術として行うことができます。なるべく3か月以内に行えるようになっています。また、当院の特徴として、内科的治療では病状が軽快しない難治性角膜感染症に対する深部層状角膜移植を行っております。現在、アcantアメーバ角膜炎に対するパーツ移植の成績は大変良好な結果が得られています。

PICKUP

臓器提供

最近ではLast Will(最後の意志)として万一の時に備え臓器提供の意志を事前に示す人が増えています。しかし、未だに臓器提供数が十分ではないため、移植を待ちながら亡くなる方が数多くおられます。臓器移植ネットワークは、臓器提供啓発のため毎年10月に「Green Light-up Project」として全国のランドマーク施設を移植のシンボルカラーである「グリーン」にライトアップします。福岡大学病院も、臓器移植医療の広がりを願ってこの時期に病院を美しいグリーンにライトアップします。10月には、秋の夜空に美しく光る福岡大学病院をご覧ください。



Green Light-up Project で
ライトアップされた福岡大学病院

13 血液浄化療法センター

血液透析をはじめとして、血漿交換や血球除去など、血液中の病因物質を体外循環で除去する治療に多職種で取り組んでいます。



血液浄化療法センターでは、種々の方法で一旦体外に血液を循環させ、血液中の病因物質を除去する治療を行っています。代表的なものは腎不全の患者さんに対して行われる血液透析で、その数は年間のべ5,000件を超えています。その他にも、豊富な知識を有するスタッフと専門的な設備を備え、白血球や抗体、時にコレステロールなど、さまざまな病態に合わせて原因物質を除去するアフェレシス治療も幅広く行っております。

医師、看護師、臨床工学技士など多職種がチームで患者さんの診療にあたり、また、治療対象の患者さんはほぼすべての診療科にわたることから、職種間・診療部署間で連携して安全で確実な医療の提供を心掛けています。

14 再生医療センター

チーム医療で質の高い安全な再生医療を提供します。



当センターでは、現在、2つの臨床膵島移植プログラムを進めております。一つは、インスリン依存性糖尿病患者さんへの脳死/心停止下ドナーからのヒト臨床膵島移植で、これまで長きにわたり福岡大学で基礎研究から積み重ねてきた知識・経験をもとに、先進医療制度下の多施設共同臨床試験を経て、現在では数少ない膵島移植認定施設として保険診療を行っています。もう一つは、難治性慢性膵炎に対する膵全摘+自家膵島移植です。欧米では数多く行われている治療ですが、日本では実施件数が少なく保険診療とされていないため、現在先進医療制度を利用して多施設臨床試験に参加し治療を行っています。

当センターで行われている上記治療に関しては、院内に独自の細胞調製室を持ち、2014年に施行された「再生医療等安全性確保法」を遵守して、特定認定再生医療等委員会、厚生労働省の厚生科学審議会の手続きを経て、細胞加工から治療提供まで安全に実施できるよう体制を整備し行っております。

内分泌糖尿病内科、放射線科、消化器外科、麻酔科、臨床検査部、組織移植コーディネーターと連携し、チーム一丸となって患者さんへの治療に取り組んでいます。

15 リハビリテーション

運動器・脳血管・心大血管・内部障害の専門チームで
早期社会復帰をめざし総合的な医療を提供しています。



当院では、年間平均5,000件の新規リハビリテーション(以下リハ)の依頼があります。内訳は脳神経疾患400~500件、運動器疾患1,200~1,300件、脊椎疾患200~300件、呼吸器・循環器疾患900~1,200件、がんリハ900~1,000件、廃用症候群500~600件と多岐にわたっています。スタッフ構成は医師4名・理学療法士23名・作業療法士4名・言語聴覚士7名・健康運動指導士1名・事務スタッフ3名(メディカルクラークを含む)です。対応すべき患者の人数が多く、患者背景も高齢化や核家族化していく社会変化の中で多岐にわたります。セラピスト等リハスタッフは訓練だけでなく一部

の診療科や退院支援に関するカンファレンスにも参加しています。限られたスタッフ人数で効率的にリハを患者さんに提供するために、また患者さんにより良い状態で回復期病院へ転院してもらうため、他の部署との情報共有や連携を大切にしています。

2011年より心臓リハビリテーションセンター・メディカルフィットネスセンターが設立され、医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・健康運動指導士などの多職種チームで、心疾患や生活習慣病の患者さんの運動療法に、多角的アプローチで対応してきました。また同年よりロボットスーツHAL®(Hybrid Assistive Limb®)が導入され、脳卒中症例や運動器疾患にHAL®を利用したリハを実施してきました。現在は保険適応となっている難病神経疾患を中心にHAL®を利用したリハを提供しています。

16 認知症疾患医療センター

多職種が連携する体制のもと、総合的な診療と新たな治療にも取り組みながら、地域の認知症医療を支えています。

福岡市より指定を受け、2014年11月より活動を開始しました。主な役割は、鑑別診断や専門医療相談の実施、地域における認知症医療提供体制の構築支援です。認知症のご本人やご家族が診断後の不安を軽減できるよう、診断後の支援や地域連携の推進にも力を入れています。見逃しのない初期対応と正確な診断を目指し、脳神経内科と精神神経科が連携した「もの忘れ外来専門センター」で、問診・評価に加えて画像診断なども組み合わせた総合的で丁寧な診療を行っています。また、身体合併症や行動・心理症状(BPSD)への急性期対応も行っています。センターには、医師のほか、認知症看護認定看護師、臨床心理士、精神保健福祉士、薬剤師、栄養士などの多職種が在籍しており、専門的な医療相談や「もの忘れ看護相談」にも対応しています。かかりつけ医等との連携強化のため、研修会なども開催しています。主に福岡市西南部(城南区、南区、早良区、西区)および糸島市の医療機関と連携し、新規アルツハイマー病治療薬に対応した診療体制を整え、新たな治療にも積極的に取り組んでいます。



17 炎症性腸疾患先進治療センター

潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患 (IBD) に対し、専門的かつ高度な医療を提供しています。



当センターでは、消化器内科・外科を中心に、看護師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど多職種が連携し、「チーム医療」による総合的な支援を行っています。カプセル内視鏡やダブルバルーン内視鏡などの高度な内視鏡検査と画像診断により病態を的確に把握し、患者さん一人ひとりに応じた最適な治療を提供します。難治例に対しては、生物学的製剤やJAK阻害薬などの先進的薬物療法に加え、内視鏡的バルーン拡張術や外科的手術を組み合わせることで、治療効果と生活の質(QOL)の向上を目指します。さらに、妊娠・出産に関する支援や、医療費・就労・就学など生活面への支援も充実させ、安心して治療に取り組める体制を整えています。また、診療を通じて、炎症性腸疾患専門医の育成にも力を注いでいます。

18 遺伝医療室

「遺伝」に関する疑問や悩みを解決していけるよう支援します。

近年、遺伝医学の進歩は目覚ましく、今まで原因不明とされてきた様々な疾患の原因遺伝子が同定され、遺伝子と疾患の関連も解明もすすみ、治療可能な遺伝性疾患も増えてきています。福岡大学病院遺伝医療室では、染色体疾患や遺伝性疾患に関する様々な疑問や不安をお持ちの方々に遺伝カウンセリングを行っています。例えば「家族の病気が自分や他の家族に遺伝しないか」、「自分の病気が子どもに伝わるかも知れない」、「子どもに先天性の異常が見つかったがどうしよう」「遺伝子検査や染色体検査を勧められたけれど、どのように考えればいいのかわからない」等をお持ちの方々に、遺伝に関する医学的、心理的、家族的影響に対して正しい情報を分かりやすく提供し、ご本人やご家族に理解していただき、共に考え、より良い方向に向かえるようお手伝いしてまいります。遺伝カウンセリングの対象疾患は、染色体の変化に伴う疾患、神経変性疾患、小児領域の遺伝性疾患、遺伝性の内分泌・代謝疾患、遺伝性のがん、周産期疾患、NIPT: non-invasive prenatal testing (母体血を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査)、その他遺伝が関係する疾患です。福岡大学病院は日本人類遺伝学会の認定研修施設であり、遺伝学に精通した臨床遺伝専門医を中心に、各診療科の専門医とともに対応いたします。



19 総合周産期母子医療センター

母体・胎児・新生児に対する高度な医療を提供し、
ハイリスクの母体と新生児を救います。

産科部門はMFICU(母体・胎児集中治療病床)9床、後方病床16床を有し、新生児部門はNICU(新生児集中治療病床)24床、後方病床12床を有し、西日本一の規模の総合周産期母子医療センターとして診療しています。

産科部門では、切迫流産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、多胎妊娠、胎児疾患、合併症妊娠(精神疾患や内科疾患など)を対象として、高度な医療を提供しています。特に、手術室や救命救急センターとの連携によって常位胎盤早期剥離や産科危機的出血への迅速な対応を可能とし、無痛分娩や院内助産を推進し、安全かつ安心できる診療を心がけています。

新生児部門では、極小未熟児の胎外での発育管理・治療や新生児の内科的疾患に加え、小児外科をはじめ、外科系の各診療科の協力のもと外科疾患の周術期管理も行っています。



20 小児医療センター

当センターは、新生児期から思春期の子どもたちを対象に、
成育医療を提供する専門施設です。

成育基本法の理念に則り、妊娠期から思春期までの成長過程にある方々に、切れ目のない医療と、成長・発達を考慮した専門性の高い医療を提供しています。福岡市の急患センターからの二次の救急の受け入れにも積極的に対応し、地域医療や救急医療の充実に貢献しています。



小児外科疾患の治療にも対応しています。小児医療環境の向上にも力を入れており、専任の保育士2名、チャイルドライフスペシャリスト1名を配置。さらに、小児看護専門看護師や臨床心理士2名が連携し、子どもたちが安心して治療を受けられる環境づくりを大切にしています。医師や医療スタッフとともに、子どもとその家族が安心できるケアを提供するため、多職種が連携しながら支援を行っています。当センターは、子どもたちの健やかな成長を支え、医療を通じて未来を創ることを目指しています。

21 臨床工学センター

医療機器のスペシャリストとして、高度な知識と技術を活かし医師、看護師と連携を行い質の高い医療の提供を技術面から支援しています。

臨床工学センターは医療機器の専門知識を有する臨床工学技士(Clinical Engineer: CE)が所属し、病院内で使用されるさまざまな医療機器の安全かつ効果的な運用を支える専門部署です。

● 手術室／心臓カテーテル室

生命維持管理装置を中心に、さまざまな医療機器の操作・保守点検・トラブル対応を担当しています。さらに、治療のサポートを通じてチーム医療に積極的に参画し、安全で円滑な手術の実現に貢献しています。

● 集中治療室

集中治療室(ICU)では主に生命維持管理装置である人工呼吸器、血液浄化装置、補助循環装置などの操作・点検・トラブル対応を行っております。

● 血液浄化センター／内視鏡センター

腎臓の機能を代替する血液透析を始め血漿交換などのアフェレシス療法も数多く行っております。内視鏡センターでは治療が円滑に行えるよう機器のメンテナンスや治療の補助を行っております。

● 医療機器中央管理

病院全体で使用される医療機器の貸出・返却・点検を中央で一元管理し、効率的な機器運用を実現しています。



22 臨床研究支援センター

最新医療の早期実現に貢献します。



医学の進歩とともに新たな薬・医療機器・再生医療が次々と生み出されています。これらを患者さんへ届けるためには、国による承認が必要であり、そのためには基礎実験に引き続き、人における有効性と安全性を確認する臨床試験(治験)が必要です。

臨床研究支援センターは、当院で実施される治験を支援することを主業務として平成13年に設立されました。現在、年間30数件の企業治験を受託していますし、医師主導治験にも積極的に参加しています。また、当院で実施される生命科学・医学系研究や特定臨床研究においても、倫理指針や法律が求める事前教育の提供や研究に係る事務的業務の支援を行っております。

病院ホームページや院内掲示板に現在参加を募集している治験を紹介していますので、興味のある方は、臨床研究支援センターへご相談ください。

最新の医療を患者さんへいち早く届けるために、皆様の治験に対するご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

23 病理部

「患者さんのための病理診断」を目標に、各分野にわたって高度な専門性を持つ病理医の連携により、精度の高い病理診断を行います。



病理部は、組織や細胞の肉眼的・顕微鏡的観察により、病気を診断する部門です。

迅速かつ的確な診断を行うため、医師と技師、病理部と臨床各科との密接なコミュニケーションを心がけています。

私たち病理医が患者さんに直接お目にかかることは基本的にはありませんが、病理組織診断、術中迅速診断、細胞診断、そして病理解剖を通して、最終的な診断の決定に深くかかわっており、臨床医とも十分に連携し、「チーム医療」の一員として診療に従事しています。

24 臨床検査・輸血部

臨床検査・輸血部は、患者さんに質の高い医療ができるよう、臨床検査の品質・精度管理された情報を提供できるよう努めています。

患者の皆様より採取した検体から血液検査、尿検査、輸血検査、細菌検査、遺伝子検査を行う「検体検査部門」と、皆様に直接接して心電図検査、肺機能検査、脳波検査、超音波検査を行う「生理機能部門」など多岐にわたる検査を行っている部門です。

当部はコロナ禍で新たにPCR検査装置を導入するなど、365日24時間体制で緊急検査体制のもと夜間や休日でも正確で迅速に質の高い検査結果を報告しています。また、国際規格ISO15189を2014年から取得し、臨床検査室の品質と能力を向上させ安心・安全な医療提供を目指しています。



25 栄養部

あたたかく、おいしい食事の提供

入院中の食事は、入院生活の楽しみとなるよう、選択食や行事食など、季節の食材を取り入れた献立を提供しております。

令和6年5月の本館移転に伴い、オール電化の新しい厨房が設置され、HACCPの考えに基づいた高いレベルの衛生管理が可能となりました。患者さんに提供する食事は、より安全であたたかく、おいしいものを目指し、「ニュークックチルシステム」を導入しています。また、「集中温度管理システム」を使用し、調理から配膳までの温度と時間を計測、確認、記録することで、安全な食事の提供に努めています。

入院患者さんの栄養管理は、管理栄養士の病棟専従、担当制で行い、一人ひとりの病態や栄養状態を評価し、適切な栄養管理を実施しています。



26 薬剤部

薬についての専門的知識を活かし、薬物治療を支援します。

PICKUP

がん専門薬剤師の面談と抗がん薬の無菌調製

がんの専門的知識を有する薬剤師が医師の外来診察前に、患者さんの個々の状態に応じた面談を実施し、薬物療法を支援します。また、全ての抗がん薬を薬剤師が無菌的に調製しています。



PICKUP

全ての病棟と手術室に専従の薬剤師を配置

入院前から手術・治療への影響や、アレルギー・副作用について確認します。入院中は患者さんの薬物治療と病態を把握し、ベッドサイドでお薬の説明をします。手術中の薬の管理や副作用にも注意し、退院後もかかりつけ薬局と連携します。

27 医療安全管理部

患者さんに安全で質の高い医療を提供できるよう、医療環境および医療システムの改善に向けて日々取り組んでいます。

特定機能病院でもある当院は、地域の先進的医療を担う病院として、より高度で良質な医療の提供を目指しています。しかし、医療の高度化・複雑化、患者さんの高齢化に伴い、医療の提供には様々なリスクが生じているのも事実です。

医療安全管理部は、少しでもこのリスクを軽減し、患者さんの安全を確保するために、日々医療環境の改善、職員教育に取り組んでいます。同時に、当院で提供する治療や看護ケアに対する患者さんの疑問にも耳を傾け、患者さんと情報共有を図りながら信頼関係に基づいた患者参画型の医療の提供を目指しています。



PICKUP

医療安全教育

医療安全管理部が中心となり、病院組織全体で安全管理に取り組み、医療事故を防止することができるように、定期的に医療安全教育、医療安全実践セミナーを開催しています。

【医療安全教育】

- ・医療安全院内教育(講義・オンデマンド配信)
- ・医療安全実践セミナー(心肺蘇生法等)

PICKUP

Rapid Response System

当院では、患者さんの状態が通常と異なる場合に、現場の医師や看護師等が定められた基準に基づき、直接、専門チームに連絡し早期に介入・治療を行うことで、ショックや心停止といった致死性の高い急変に至ることを防ぐシステムを導入しています。



PICKUP

患者相談窓口

患者さん、ご家族の皆様からのご意見・ご要望に迅速に対応し、より良い医療を提供する体制を確保するため、医療安全管理部内にご意見・ご要望相談窓口を設置しております。相談いただいた内容は関連する部署内でのみ共有し改善に役立てるとともに、患者さんやご家族の皆様にご不快が生じないよう配慮いたします。安心して治療・療養に専念できるよう、遠慮なくご相談ください。

28 感染制御部

患者さんに安全な医療を提供するため、
院内感染対策の中心として活動しています。

現代の高度医療において、血管内にカテーテルを挿入して点滴等を投与したり、膀胱内にカテーテルを挿入して排尿の管理を行ったりすることは、当たり前のように行われています。また、状態が悪い患者さんの場合は、気管内にチューブを挿入して呼吸を管理することもあります。これらは治療のために必要な医療行為ですが、同時にこれらの医療行為に関連する感染症、すなわち医療関連感染が起きる可能性もはらんでいます。

医療関連感染の予防は、すべてのスタッフの責任ですが、感染症や感染対策の専門家による支援が不可欠です。感染制御部には、感染症や感染対策に関する専門知識を持つ医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師からなる感染制御チームが構成されており、医療関連感染の予防のための中心的な役割を果たしています。また、感染制御部は地域の医療機関との連携体制を構築し、主に福岡西部地区の連携医療機関における院内感染対策に関する指導的な役割も担っています。



PICKUP

臨床検査部ラウンド

特定の薬剤耐性菌の検出状況や、重症の感染症である血流感染症の発生状況について、臨床検査部において毎朝ラウンドを行っています。血流感染症の症例については、原因菌を迅速に確認し、適切な抗菌薬治療を開始するための指導を行っています。



PICKUP

地域連携活動

福岡大学病院の主催により、連携医療機関の感染対策担当者や、保健所・医師会の担当者を交えたカンファレンスを年4回開催し、感染対策に関する意見交換を行っています。また、福岡大学病院から連携医療機関を訪問し、各医療機関の状況を直接確認し、適切な指導を行っています。

PICKUP

院内ラウンド

感染制御チームは毎週病院内を巡回し、各部署の感染対策の実施状況を確認しています。また特定の薬剤耐性菌等が検出された場合は、当該部署において的確な感染対策を迅速に開始するための指導を行っています。



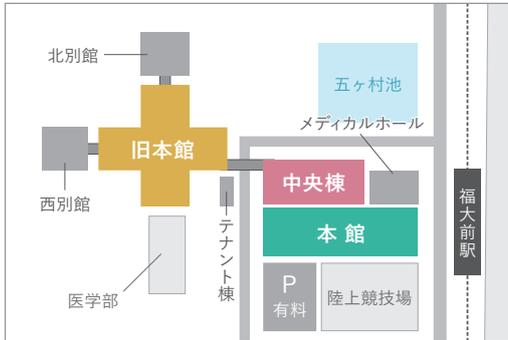
PICKUP

人材育成

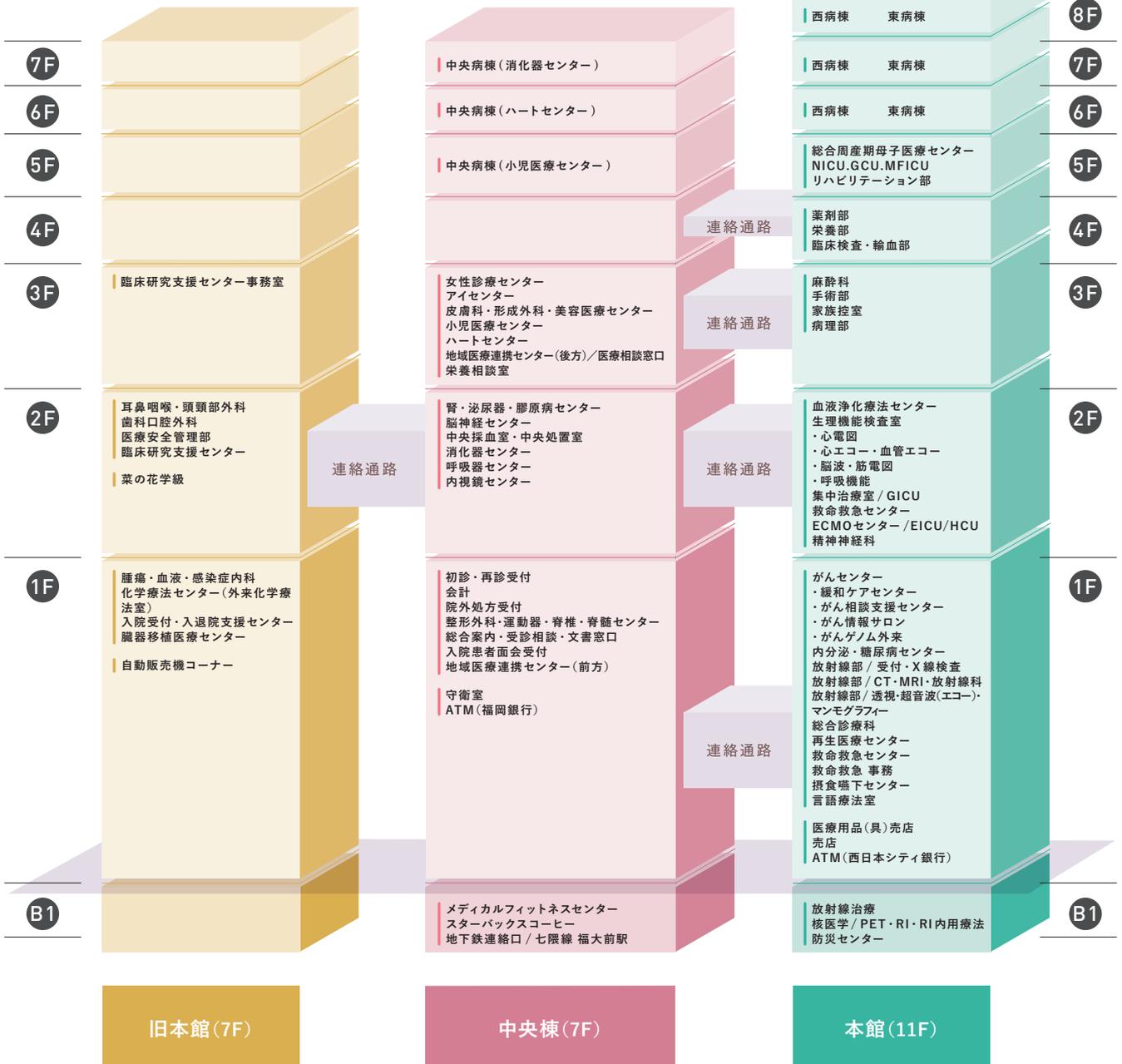
感染制御部のメンバーは、感染症・感染対策の専門家として、本学医学部等の学生に対する講義・実習を行っています。また、病院スタッフに対して院内感染対策の実技に関する講習を定期的に開催し、感染対策に関する技術の向上に努めています。



フロア紹介



福岡大学病院 マップ



院内施設紹介



福岡銀行 ATM

利用時間 平日・土曜・日曜・祝日
9時00分～20時00分
場所 中央棟1階



西日本シティ銀行 ATM

利用時間 平日・土曜・日曜・祝日
9時00分～20時00分
場所 本館1階



スターバックス コーヒー (喫茶)

営業時間 平日 8時00分～19時00分
場所 中央棟地下1階



B'EASE (レストラン)

営業時間 平日 8時00分～16時00分
(オーダーストップ15時30分)
場所 テナント棟2階



こもれび (美容室)

営業時間 月曜～金曜 (祝日も営業)
9時00分～18時00分
場所 テナント棟1階



アットホーム

クッキーやケーキの販売を行っています。
営業時間 平日 10時30分～14時00分
場所 中央棟1階



ローソン (売店)

営業時間 平日・土曜・日曜・祝日
7時00分～22時00分
場所 テナント棟1階



ローソン (売店)

営業時間 平日・土曜・日曜・祝日
8時00分～19時00分
場所 本館1階



医療用品 (具) 売店

営業時間 平日 10時00分～16時40分
場所 本館1階



福大メディカルホール

地下鉄七隈線福大前駅の真上にある、300席の講演会ホールで、講演会や研修会等を開催しています。

場所 中央棟1階横(問い合わせ先: 庶務課)



福大プラザ

各診療科や講演会の案内の他、本学学生や一般の方の展示スペースとして開放しています。

場所 中央棟地下1階(問い合わせ先: 庶務課)



がんセンター (がん情報サロン)

患者さんやご家族の方ががんについて情報収集したり、相談できる場所です。

利用時間 平日 8時30分～17時30分
場所 本館1階ローソン横

※新型コロナウイルス感染症の状況によって、営業時間が変更となる場合がありますので、ご注意ください。

病院概要

病院のあゆみ

昭和48年8月4日	福岡大学病院開設
昭和59年9月30日	西別館完成
昭和60年4月22日	南片江小学校「なのはな学級」開級
昭和62年4月1日	救急部開設
昭和63年3月29日	外国医師・歯科医師臨床修練指定病院承認
平成2年4月1日	新生児特定集中治療室(NICU)施設基準承認
平成4年6月1日	救命救急センター指定
平成4年11月1日	特定集中治療室管理(ICU)施設基準承認
平成6年2月1日	特定機能病院承認
平成6年4月1日	エイズ治療拠点病院指定
平成8年12月27日	災害拠点病院指定
平成10年4月1日	梅林中学校「菜の花学級」開級
平成10年12月1日	総合周産期母子医療センター指定
平成14年10月1日	外科系集中治療室設置
平成15年1月1日	院内全館禁煙実施
平成15年4月1日	医療安全管理部(医療相談窓口含む)を設置 卒後臨床研修センター設置 臨床工学センター設置
平成16年4月1日	地域医療連携室設置 臨床研修病院(基幹型)指定
平成16年11月22日	(財)日本医療機能評価機構 病院機能評価認定
平成17年2月3日	福岡市営地下鉄七隈線開業
平成17年5月31日	脳死肺移植実施施設認定
平成17年10月28日	新鮮臍島分離移植施設認定
平成19年1月1日	病院敷地内禁煙実施
平成19年4月1日	院内保育所開設 腫瘍センター設置(現 福岡大学がんセンター)
平成19年7月2日	治験拠点病院指定
平成20年1月31日	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)指定
平成20年2月8日	地域がん診療連携拠点病院指定
平成21年8月5日	電子カルテシステム稼働
平成22年4月5日	メディカルクラーク導入
平成23年1月4日	福岡大学病院新館開院
平成23年3月12日	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(東日本大震災)
平成23年6月1日	テナント棟オープン
平成24年7月21日	福岡都市高速5号線(環状線)開通
平成25年4月1日	二次救急受入れ開始 救急病院認定
平成26年6月27日	福岡市救急病院協会入会
平成26年7月1日	福岡市児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院指定
平成26年11月1日	福岡市認知症疾患医療センター指定
平成28年4月15日	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(熊本地震)
平成28年4月24日	日本医師会災害派遣医療チーム(福岡県JMAT)派遣(熊本地震)
平成29年4月1日	地域医療連携センター業務専用車両運用開始
平成29年7月7日	朝倉豪雨災害被災地へ福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣
平成30年1月4日	ファーストメディカルレスポンスカー(FMRC)運用開始
平成30年1月29日	小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業受託 (福岡県・福岡市・久留米市・北九州市)
平成30年4月1日	ななくまのもり保育園開園 がんゲノム医療連携病院指定
平成30年6月1日	治療と仕事の両立支援相談窓口開設
平成30年7月13日	高齢運転者の交通事故抑止に向けて早良警察署と協力
平成31年3月4日	ふくおかDPAT派遣協定締結
令和2年7月5日	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(令和2年7月豪雨)
令和2年10月14日	福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定
令和5年8月4日	開院50周年
令和6年5月7日	新本館開院

認定・指定施設

- 外国医師・歯科医師臨床修練指定病院
- 救命救急センター
- 特定機能病院
- エイズ治療拠点病院
- 災害拠点病院
- (公財)日本医療機能評価機構認定病院
- 脳死肺移植実施施設
- 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)
- 災害派遣精神医療チーム(ふくおかDPAT)
- 地域がん診療連携拠点病院
- 救急病院
- 総合周産期母子医療センター
- 臨床研修病院(基幹型)
- 福岡市児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院
- 福岡市認知症疾患医療センター
- がんゲノム医療連携病院
- 福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関
- 福岡県小児等在宅医療推進事業拠点病院

組織図



概要

名称 福岡大学病院
所在地 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
電話番号 092-801-1011 (代表)
FAX 092-862-8200 (代表)
ホームページ <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>
開設年月日 昭和48年8月4日

数字データ (令和7年4月1日現在)

●病床数 771床 (一般731床、精神40床)
●職員数 2,014人
医師……………514人 医療技術職員…283人
臨床研修医……………60人 事務職員……………109人
看護職員……………969人 その他……………79人

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外来患者数	359,898	349,401	306,385	326,096	326,257	326,731	323,145
入院患者数	270,794	266,923	239,189	238,286	223,922	230,033	232,385
平均在院日数*	11.9	12.1	12.5	11.4	10.9	11.2	11.0
手術件数	8,504	8,553	7,524	8,117	8,158	8,803	10,166

*精神神経科を除く一般病棟を対象として算出しています。

患者さんの権利と義務

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。福岡大学病院では、信頼され安心して受診していただける病院を実現するため、患者さんの基本的な権利を明確にしてこれを職員一同が確認すると共に、患者さんにも義務を守っていただくことを要望いたします。

● 患者さんの権利

- 受療権** 患者さんには常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
- 選択権** 患者さんには病院を自由に選択し、変更する権利があります。また、患者さんには、自己の費用負担の下にセカンドオピニオンを求める権利があります。
- 自己決定権** 患者さんは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて十分説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否する権利があります。
- 知る権利** 患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
- プライバシー保護権** 患者さんは医療上得られた個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

● 患者さんの義務

- 情報提供義務** 患者さんは良質な医療の提供を受けるために、ご自分の健康に関する情報をできる限り正確に医師や看護師に提供してください。
- 状況確認義務** 患者さんは納得のいく医療の提供を受けるために、医療に関する説明を受け理解できない場合は理解できるまで質問して確認してください。
- 診療協力義務**
- 全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則、職員の指示を守ってください。
 - 他の患者さんや職員に対する暴言・暴力等迷惑行為はお断りします。
 - 病院内では静粛にし、病院の設備・器物は大切に扱ってください。
 - 病院敷地内は禁煙・禁酒です。入院中の喫煙・飲酒は禁止します。
- 医療費支払い義務** 適切な医療を維持していただくために、医療費を滞滞なくお支払いいただくことが必要です。

● 義務に違反した場合

前掲の義務に違反する行為等があったときは診療を中止することがあります。
また、暴言・暴力等の行為があったときは警察署に通報します。

患者の皆さんの個人情報について

当院では、取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録を医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたいと思っておりますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 個人情報の利用目的

当院での利用

- ◎患者さんがお受けになる医療サービス
- ◎医療保険事務
- ◎患者さんに関係する管理運営業務 (入退院等の病棟管理、会計・経理、医療事故の報告、医療サービスの向上)
- ◎医療サービスや業務の維持・改善のための基礎資料
- ◎院内がん登録業務および全国がん登録業務(予後調査含)

当院および福岡大学での利用

- ◎医学系教育
- ◎症例に基づく研究や研修
この利用に当たりましては、可能な限り匿名化するよう努力します。

他の事業者等への情報提供

- ◎他の病院、診療所、助産所、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との医療サービス等に関する連携
- ◎他の医療機関等からの医療サービス等に関する照会への回答
- ◎患者さんの診療等にあたり外部の医師等の意見・助言を求める場合
- ◎検体検査業務の委託その他の業務委託
- ◎患者さんの家族への病状説明
- ◎医療保険事務(保険事務の委託、審査支払機関へのレセプトの提出)
- ◎審査支払機関または保険者からの照会への回答
- ◎関係法令等に基づく行政機関および司法機関等への提出等
- ◎関係法令に基づいて事業者等からの委託を受けて健康診断を行った場合における、事業者等へのその結果通知
- ◎医師賠償責任保険等に係る医療に関する専門の団体、保険会社等への相談又は届出等
- ◎外部監査機関への情報提供
- ◎院内がん登録および全国がん登録(予後調査含)における国立がん研究センター等への情報提供

付記

1. 臨床研究においては、患者さんの同意に基づき個人情報を適切に保護いたしております。
2. 上記のうち、他の医療機関等への情報提供について同意しがたい事項がある場合には、その旨を担当窓口までお申し出ください。
3. お申し出がないものについては、同意していただいたものとして取り扱わせていただきます。
4. これらのお申し出は、後からいつでも撤回、変更等をすることができます。



● 外来駐車場

自家用車でご来院の際は、外来駐車場をご利用ください。ただし、入院のためご来院いただく際の駐車場利用はご遠慮いただいています。公共の交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。



駐車場利用料金

駐車から最初の30分は無料、4時間まで200円、以降1時間が経過するごとに100円加算されます。

ただし、外来を受診された患者さんに限り、2時間まで100円、2～24時間まで200円となります。また、障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳のみが対象)をご提示いただくと、外来受診者に限り、駐車料金を免除いたします。いずれも割引処理は、中央棟1階守衛室にて①受付票または領収書、②駐車券、③障害者手帳(③はお持ちの方のみ)の2点もしくは3点をご提示いただくと割引処理を行います(※減免対象は当日分のみ)。

● 他医療機関への連絡バス

下記の医療機関との連絡便が運行されています。ご利用ください。

- 白十字病院
- 西福岡病院^{※1}
- 福岡リハビリテーション病院
- 夫婦石病院^{※2}
- 福西会病院

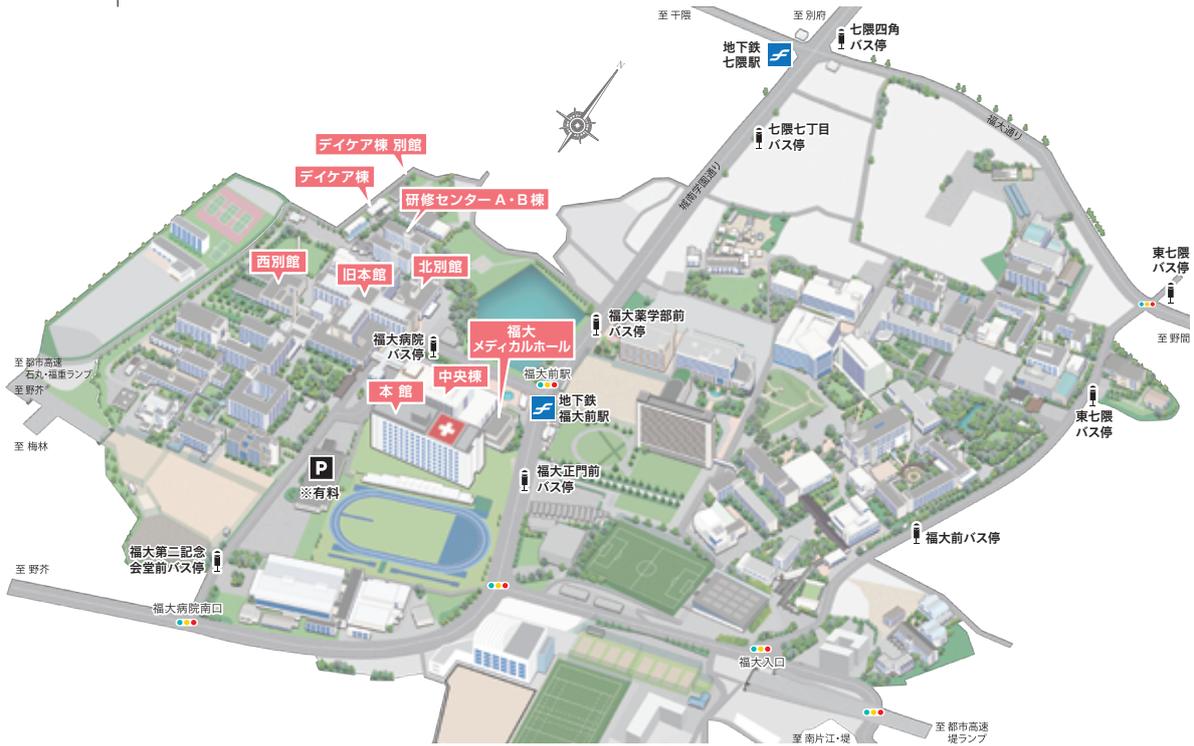
※1 西福岡病院のみ旧本館玄関前には停車しません。中央棟玄関前からお乗りください。

※2 夫婦石病院との連絡便は、新型コロナウイルス感染症拡大時、運休いたします。

広域MAP



詳細MAP



〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
 TEL: (092)801-1011(代)
 発行: 医療情報部
 URL: <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>

検索 福岡大学病院



YouTube
 福岡大学病院
 公式チャンネル

